

過去との比較

第13期 清水 亮輔

2月3日、あっ、やべ...卒業エッセイの締め切りが迫っている...。そんな焦りの中、新宿の野村ビル地下共有スペースにて、パソコンと睨めっこしていた。しかし、過去のOB・OG会誌を見るが、何もアイデアが出てこない。アイデアがないというよりは、多くの小野ゼミの経験の中から、書く内容を決める決定的な一打がないというほうが正しい。あれこれ考えているうちに2日が経過し、今日も新宿の野村ビル地下共有スペースにて、パソコンと睨めっこしている。ふと、「なんで小野ゼミを志望したっけ？」という疑問が湧き、昔のESを眺めてみた。そこには、笑いを誘う同期の素敵な証明写真が並べられるとともに、私が小野ゼミを志望した理由が稚拙ながらも記されていた。あの頃を思うと、大変懐かしい。当時私は、有志で参加した国際プログラムにおいて、各国から集まった優秀な学生たちと交流する機会があった。その際、自分の能力が彼らのそれに満たないことを痛感した。私は、「北京大学の友人を超えられるような優秀な人間になりたい、そのために小野ゼミで修行したい」と思い、小野ゼミ志望したのである。

そんな思いで入会した小野ゼミでの2年間は、小野ゼミでしか得られない日々だったと思う。この2年間に、Global Business Case Competition, Marketing Competition Japan, Global Marketing Conference, International Conference of Asian Marketing Associations, OB・OG会（自己満足のために正式名称で列挙する）など、様々な活動を経験することができた。これらの活動を経験したうえで、思うことがある。それは、これらの活動の成果（国際学会発表権利の獲得など）ではなく、これらの活動に費やした時間が、今の私にとってかけがえのない宝物であるということである。それぞれの活動について考えるとき、私は、目標に向かって同期と過ごした日々を思い出すのである。毎日のように、同期と共に考え、共に酒を飲み、共に飯を食い、共に徹夜し、共に喧嘩をし、共に泣いた。気が付けば、小野ゼミに入会してから2年が過ぎていた。

つい先日、Global Marketing Conference および International Conference of Asian Marketing Associations に参加した際、私は、冒頭で言及した北京大学の友人たちと久しぶりに再会した。小野ゼミに入会する以前に彼らと出会ったときとは異なり、私は堂々と彼らと対等とお喋りをし、時には議論をリードするようになっていた。その時には実感が湧かなかったが、今思い返せば、私自身が小野ゼミの活動を通して、超える、まではいかなくとも、苦さを感じた2年前の自分からは、少しは成長できたのではないかと考えている。来年度から、私は大学院へ進学する。また、大学院修士課程が修了する2年後、進学前の自分と比較したときに、成長できたことが実感できるよう、大学院生活も精進していきたい。